

きょうの紙面

ビクターブランド 発売凍結から復活 15



JVCケンウッドの辻孝夫社長は14日、2012年から製品発売を凍結していた「Victor(ビクター)」ブランドを復活させると発表した。

「ビクター」ブランド復活

JVC、新音響技術公表

JVCケンウッド(横浜市神奈川区)の辻孝夫社長は14日、本会で会見し、2012年から製品発売を凍結していた「Victor(ビクター)」ブランドを復活させると発表した。08年の米リーマン・ショック後の危機から再建が進み、成長の旗印として再起動を決めた。同日の会見では、その第一弾となる新たな音響技術「エクソフィールド」も公表した。

ビクターの名は米国企業長戦略に移行した。約5年ぶりとなる今回の復活は、同社の次なる発展の旗印とすることに加え、今年が日

一方、再建や企業統合の作業が一巡し、昨年6月に新経営体制が発足。同時にイノベーション(技術革新)の創出などに軸足を置く「JK3.0」と題した成



「Victor(ビクター)」ブランドの復活を明らかにしたJVCケンウッドの辻孝夫社長(ヘッドホン再生ながらもスピーカーで聴いている感覚が得られる「エクソフィールド」を試す記者(左端))

横浜市神奈川区

聴しておりましたが、ビクター・ブランドを再定義し、復活させる。音と映像の革新で、再び時代をつくる」と力を込めた。さらに、その第一弾として08年から開発を進めて来た「エクソフィールド」を紹介。ヘッドホンで音源を再生しながらもスピーカーで聴くような臨場感を再現する技術。5月に商品発表を行い、顧客ごとに聞こえ方などを測定、17年度上期中に発売を目指すという。市場拡大が期待されるVR(仮想現実)機器やホームシアター向けヘッドホンシステムとの連携も視野に入れている。辻社長は「私たちがヘッドホンの新たな文化を築いていく」とした。

「エクソフィールド」 頭の外側に音の空間

JVCケンウッドの新技術「エクソフィールド」を記者も試した。既製品のヘッドホンからジャズやクラシックを流し、同技術を施した状態と聞き比べた。音響に素人ながら明確に判別できたのが、自分の頭の外側に音の空間が現れる感覚だ。ヘッドホンで聴いているのに周囲に並んだスピーカーから聴いているような体感ともいえた。同社技術者はそれを「音場が頭外定した状態」と美直に説明したがまさにその何とも「硬い」表現がビタリ。既製品のイヤホン、ヘッドホンでも音場は十分に再現できる。が、新技術はそ

の力がさらに豊かに感じられた。聞き比べるにつれ、眼前にバンドやオーケストラがいて、自分に向かって音を鳴らしているようなバーチャルな臨場感に浸れた。ただ少々懸念も。この技術を体験するには自分がヘッドホンからどう音を聞いているかなどを事前測定する必要がある点だ。1分間もかからない簡単なものだが、広く受け入れられるか。インターネット通販が増勢の中、測定をどう実施し、その正確性もいかに担保するか。革新的な技術だけにそうした部分のユーザー対応が、事業化や普及の鍵にも思えた。(中尾 浩之)